

科目名	英語				
担当者氏名	野寄 一恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

保育園や幼稚園で必要となる英語を中心に、日常生活に関係する英会話に慣れる。また、幼児向けの遊び歌やその他の英語の歌を聞き、歌い、英語に親しむと同時に、子どもに教えられるようにする。

《テキスト》

Maiko Tsuchiya著 Happy English for Childcare
金星堂

《参考図書》

《授業の到達目標》

英語が必要な状況になった時に、簡単なフレーズの英語がすぐ口から出るようにする。子ども向けの英語の歌を見ないで歌えるようにする。

《授業時間外学習》

音声ファイルの無料ダウンロードを行い、必ず予習として音声を聞き、テキストの空欄を埋めておく。また毎回小テストを行うので、指定されたフレーズを覚えておく。

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、
 3) 発表 30%
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka	授業方針説明とクラスのルール クラスルームイングリッシュ 自己紹介 人に何かを頼む表現
2	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現 戸外での道案内
3	Unit 3 Good Morning. How Are You Today?	登園時の会話 今日の調子を聞く、答える表現
4	Unit 4 What Color Do You Like?	好きなもの、嫌いなものを聞くWhat の
5	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf	場所をあらわ明日表現 教室内の物の場所を示す
6	Unit 6 It's Time to Play Outside	人に何かするよう・しないよう言う表現 英語で「桃太郎」を読む
7	Unit 7 She Is Allergic to Eggs	食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を伝える表現
8	Unit 8 You Should Go to the Bathroom	しなければならないこと、する必要があることを伝える表現
9	Unit 9 We Made Masks Today	一日の活動と様子を伝える表現
10	Unit 10 If It Rains, What Happens?	「もし、～なら」という仮定の表現
11	Unit 11 What Shall We Do Today?	Shall I/we～とWill you～?を用いた表現
12	Unit 12 I Feel Feverish	病気やけがの症状を伝える表現
13	Unit 13 This Is Yuri from ~	電話応対に便利な表現
14	Unit 14 Thank You Very Much for Everything	お礼の表現 動きの表現 誕生日カード
15	復習テスト	発表と復習テスト

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。
 なお、提出課題と提出物にはルーブリック等を用いて評価をフィードバックするとともに、わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／コンピュータ実習室の利用
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	インターネットとコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネットと情報検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
7	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題
8	文書作成(1)	レポート形式の文書による基礎的な文書の作成
9	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4)／まとめ	相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り

《テキスト》

- 毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- 配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

- 矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『(新課程) インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろからパソコンを利用する機会をつくりましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種アプリの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『学生のためのOffice2016&情報モラル』noa出版、2016

《参考図書》

- ・『ネット社会を賢く生きよう！最新情報モラル』日経BP社
- ・『Microsoft Word 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft Excel 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft PowerPoint 2016 応用』FOM出版

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・アクティブラーニング形式で行う場合があります。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・過去プリント要求は、授業直前は控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバス内容を確認する。学内情報システムを理解する。実習室サインインアカウントを確認する。
2	Windowsの基礎 メール(1)	Windowsの基本操作を知る。 Webメールで送受信する。
3	メール(2) 情報検索	メールのマナーを知る。 ネット検索を行う。
4	情報モラル	著作権・肖像権を知る。 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解する。
5	文書作成(1)	Wordの画面構成を知る。 文書を編集する。
6	文書作成(2)	レポートを編集する。 (ページ設定、表紙の作成、フッター、グラフの挿入)
7	Word課題	Wordを用いた演習課題を行う。
8	表作成(1)	Excelの画面構成を知る。 表を編集する。数式を入力する。
9	表作成(2)	関数(SUM, AVERAGE, ROUNDなど)を使う。
10	グラフ作成	グラフの種類と特徴を知る。 グラフを作成する。
11	Excel課題	Excelを用いた演習課題を行う。
12	スライド資料の作成(1)	PowerPointの画面構成を知る。 スライドを作成する。
13	スライド資料の作成(2)	スライドを効果的に見せる。
14	PowerPoint課題	PowerPointを用いた演習課題を行う。
15	総合課題	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	佐竹 邦子、稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育の現場へのICT導入が進められています。ICTを使い業務の効率化やデータ分析ができれば、よりよい保育につながります。

この授業では「コンピュータ演習」で学んだことをベースに各種アプリの習熟度を高めることを目指します。より早く魅力的な文書を作成できるよう、また、各種データを分析できるようになりましょう。

《授業の到達目標》

- ・ビジネス文書、図で魅せる文書、差し込み文書を作成できる。
- ・Excelでデータベースを活用できる。
- ・伝わるグラフを作成できる。
- ・簡単なデータ分析ができる。
- ・効率化のための工夫ができる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『実践ドリルで学ぶ Office活用術 2016対応』noa出版、2016

《参考図書》

必要に応じ授業内で示します。

《授業時間外学習》

- ・予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
- ・復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・「コンピュータ演習」の修得を前提として授業を進めます。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・教室設備の関係により履修者数を制限する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容の説明。【必ず出席すること。履修希望者多数の場合、抽選実施する可能性あり。】文字入力の基本操作の確認、Word基本操作の復習
2	Word活用術（1）	文書の構成を知る。ビジネス文書のポイントを押さえる。表で分かりやすくまとめる。
3	Word活用術（2）	前回内容の練習、応用。
4	Word & 画像編集アプリ（1）	図で魅せる。画像編集アプリを使う。
5	Word & 画像編集アプリ（2）	前回内容の練習、応用。
6	Word & 画像編集アプリ（3）	実践例に取り組む。
7	Excel活用術（1）	書式をつけて見やすく編集。関数を使いこなす。伝わるグラフを作成する。
8	Excel活用術（2）	前回内容の練習、応用。
9	Excel活用術（3）	データベースを活用する。視点を変えて集計する。
10	Excel活用術（4）	前回内容の練習、応用。
11	Excel活用術（5）	実践例に取り組む。
12	Word&Excel活用術（1）	それぞれの特性を活かす。データを連携させる。
13	Word&Excel活用術（2）	前回内容の練習、応用。
14	まとめ（1）	総合実践例に取り組む。
15	まとめ（2）	総合実践例に取り組む。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	文学				
担当者氏名	厚美 尚子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力			

《授業の概要》

日本児童文学の歩みに沿って、主に昭和初期までの代表的な作品を読む。それぞれの作品について、作家の来歴・作品の背景・これまでの評価などについて学ぶ。

《テキスト》

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

毎回のミニレポート・期末レポートの執筆を通して、研究的視点を身につける。自分の意見を書く、他人の意見を聴く経験を通して、物事を多面的に捉える姿勢を身につける。

《授業時間外学習》

次回に取り上げる予定の作家の作品をあらかじめ読み、ミニレポート執筆の準備をしておくこと。

《成績評価の方法》

毎回の授業時間内に提出するミニレポート（45%）、期末レポート（55%）
 ※毎回執筆されるミニレポートは、次回の授業時にいくつか紹介し、コメントする。また、文中に質問があればその都度口頭で返答もしくはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションをとりながら進めたいと思います。まずは作品を楽しく読むことから始めましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童文学を学ぶことについて	わたしたちが児童文学を学ぶことに、どういう意味があるのか考える
2	巖谷小波「こがね丸」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
3	巖谷小波「こがね丸」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
4	小川未明「赤い船」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
5	小川未明「赤い船」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
6	小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む	小川未明のさまざまな作品を読み、ミニレポートを執筆する。
7	小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
8	芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
9	芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
10	有島武郎「一房の葡萄」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
11	有島武郎「一房の葡萄」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
12	宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
13	宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。
14	坪田譲治「魔法」を読む	作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。
15	坪田譲治「魔法」を読む	前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。

科目名	色彩学				
担当者氏名	近藤 雅義				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

現代は生活環境の彩りを快適に暮らせるように思慮深く考える色彩化の時代であり、衣・食・住などの様々な生活環境において色彩の用い方に工夫が行われている。色彩の用い方を間違えると視覚上や心理面において不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論の知識を活用して色の組み合わせによる構成を考えることにより、色彩表現力を養い、色彩理論を応用できる能力を持つことを目標とする。理論を色でも理解することがこの授業のポイントである。

《成績評価の方法》

小テスト (50%)、カラーリング課題 (50%)
 ※各種カラーリング課題の作品について指導を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース（地色）のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛い色はどのような色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果（1）	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相もっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果（2）	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系（カラーシステム）	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。
9	配色調和（1）	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和（2）	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」（ファッション）の色彩	各シーズン（春、夏、秋、冬）に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権と権力の分立」「平和主義」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、第15週の授業時間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。
※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	「国民主権」と「権力の分立」（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	「国民主権」と「権力の分立」（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	「国民主権」と「権力の分立」（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語ることができる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できる。
- (3) 講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できる。

《成績評価の方法》

○毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）○「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会），『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編，（世界思想社），『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社），『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社），『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活用してください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）について理解する
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成について理解する
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダーについて理解する
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダーについて理解する
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダーについて理解する
6	学習のまとめとワークショップ①	「ジェンダー論の基礎、結婚・家族はどう変わったか」についてまとめる
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダーについて理解する
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダーについて理解する
9	学習のまとめとワークショップ②	「女の時間・男の時間」についてまとめる
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダーについて理解する
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダーについて理解する
12	マスメディアとジェンダー	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダーについて理解する
13	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダーについて理解する
14	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダーについて理解する
15	学習のまとめ	「学校の中のジェンダー、マスメディアとジェンダー、性・こころ・からだ」についてまとめる

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

健康を考えながらスポーツをする上で必要な知識を学習する。

《テキスト》

第2版 『健康とスポーツを科学する』
 ☆これからの幸せを求めて
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

健康に役立つスポーツを実践し、これからの人生に有意義にチャレンジする基礎をつくる。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%
 (授業中に実施する小テスト、レポート課題
 および授業取り組みへの積極性) 30%

《備考》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康とは？	健康の概念と体力から健康寿命を考える。
2	肥満	メタボリックシンドローム等について学ぶ。
3	筋・骨格系とスポーツ	筋肉と骨の基礎知識から健康との関連を考える。
4	栄養とスポーツ	食事を通しての栄養素の必要性について学ぶ。
5	サプリメント	サプリメントの位置づけを考える。
6	メンタルヘルス	こころの健康とストレスについて学ぶ。
7	スポーツとストレス	スポーツのストレス軽減効果について考える。
8	熱中症	熱中症対策について学ぶ。
9	スポーツ障害	スポーツ障害を分類し予防・再発防止について学ぶ。
10	発育期の身体活動	スポーツ活動、体力の現状を考える。
11	青年期の身体活動	今の自分自身のスポーツ状況を考える。
12	高齢期の身体活動	生活習慣病予防、介護予防の運動について学ぶ。
13	超高齢期の身体活動	スーパーオールドの身体活動から、遠い将来のヒントを探す。
14	生存の為の体力	天災時に避難する体力の必要性について考える。
15	学習のまとめ	総合判定実施

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

現代社会に直面する種々の身近な健康問題や疾患について講義を行う。併せてスポーツに伴う障害とその対策法についても併せて教授する。

《テキスト》

第2版 『健康とスポーツを科学する』
 ☆これからの幸せを求めて
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

トピックスとしての健康問題を理解するとともに疾病に対する予防や対処法について習得する。健康増進に必須であるスポーツの効用について理解しながら、効果的で安全な運動習慣の知識を深める。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%（授業中に実施する小テスト、レポート課題および授業取り組みへの積極性）30%

《備考》

講義ごとにプリントを配布する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食物アレルギー	乳幼児に発症する卵アレルギーなどの原因を理解し、対応を学ぶ。
2	花粉症とアレルギー	スギ花粉などによるアレルギー性鼻炎の発症メカニズムを理解し、対処方法を学ぶ。
3	運動誘発喘息	気管支喘息患者に多発する運動誘発気管支収縮の実際を理解する。運動によって増悪する喘息の対処方法を学ぶ。
4	睡眠時無呼吸症候群	生活習慣病の増加に伴って睡眠時無呼吸症候群（SAS）が増加している。SASによる健康被害と治療法について学ぶ。
5	インフルエンザ感染症	インフルエンザ感染症の実際を知るとともに、爆発的流行が心配されている新型インフルエンザについて考える。
6	HIV感染症とエイズ	免疫機能を破壊するHIVの感染について学習するとともにエイズ患者との共生について学ぶ。
7	脳死と臓器移植	心臓死と脳死の違いについて理解するとともに脳死による臓器移植の実際について学ぶ。
8	救急医療	1次から3次救急の役割を理解する。3次救急で注目されているドクターヘリの運用について学ぶ。
9	喫煙と健康被害	喫煙の歴史について学習すると同時に、喫煙による健康被害について理解する。
10	節足動物による感染症	野外に存在するダニや蚊による感染症について学習する。併せてキャンプなどの野外活動の注意事項を理解する。
11	有害動物による健康被害	野外に存在するヘビなどの哺乳動物による健康被害について学習する。併せてキャンプなどの野外活動の注意事項を理解する。
12	高地でのエネルギー補給と高山病・落雷	登山における必要な水分やエネルギー補給量について学ぶ。登山におけるさまざまな物理・化学的な健康被害（落雷・高山病・火山ガス等）について理解する。
13	熱中症とその予防	暑熱環境下におけるスポーツ活動の危険性を理解するとともにその予防法を学ぶ。
14	妊娠女性の高齢化と生殖補助医療（ART）	高齢出産の実際について学ぶ。併せて、対外受精による生殖補助医療（ART）の可能性と問題について理解する。
15	筆記試験	本科目の理解度を把握するために試験を実施する。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者氏名	永井 夕起子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 ＜復習方法＞
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者氏名	永井 夕起子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめたレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめたレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

平成29（2017）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育A	科目ナンバリング	C1011SG G001
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず、楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。

《テキスト》

『やさしい楽典』（ドレミ楽譜出版社）

《参考図書》

その他、資料などは必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 音楽理論を理解し、楽譜を理解して演奏できるようになる。
- コードネームを見て伴奏づけができる。
- 律動や保育現場での音楽活動に必要なリズムが理解できる。
- 子どもの声の高さに合わせて移調ができる。
- 初見で歌ったり、演奏したりできる。

《授業時間外学習》

【復習】毎回の授業が理解できないと次の授業で更に理解できなくなります。必ず前回の授業内容を復習し理解したうえで毎回の授業を受けること。

《成績評価の方法》

平常点30% (授業中に指示する課題)
 筆記試験70%
 試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

1. 保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。2. 悪い受講態度(スマホ使用、無駄話、重度な居眠りなど)は評価に反映します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	楽譜の基礎	五線、音部記号、音名(イタリア語、日本語、英語)、音高、# b ♯、異名同音 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
2	拍子①、音の長さ①	拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、4分の2拍子、小節、反復記号、3連符、リズム打ち、弱起の曲、タイとスラー、シンコペーション
3	拍子②、音の長さ②	拍子、8分の6拍子、8分の3拍子、付点音符、リズム打ち、リズム総復習 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
4	音階、ハ長調、記号	音階、ハ長調の簡単なメロディーの初見奏、強弱記号、奏法記号 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
5	主要三和音とコードネーム(ハ長調①)	I、IV、V、V7とC、F、G、G7の理解、和音の基本形と転回形、カデンツ(和声)
6	主要三和音とコードネーム(ハ長調②)	ハ長調の初見奏(和音あり、両手)、コードネーム付きメロディー譜で伴奏付け ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
7	主要三和音とコードネーム(ヘ長調)	ヘ長調の音階、I、IV、V、V7とF、B♭、C、C7の理解、ヘ長調の初見奏
8	主要三和音とコードネーム(ト長調)	ト長調の音階、I、IV、V、V7とG、C、D、D7の理解、ト長調の初見奏 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
9	三和音の種類、その他のコードネーム	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音とコードネーム、2度、3度の音程の理解
10	イ短調	イ短調の自然短音階、和声短音階、旋律短音階、イ短調の主要三和音とコードネーム ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
11	調について	調号の理解、#系の調、b系の調
12	移調	調の理解と確認、移調の方法、移調奏
13	復習①、伴奏法	音、拍子、リズムの復習、主要三和音、コードネームの復習
14	まとめ	理解の確認
15	復習②、理解度の定着	調、主要三和音、分散和音などの伴奏法

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B	科目ナンバリング	C1012S◆○002
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

音楽教育Bでは、器楽合奏で使う打楽器や鍵盤楽器などの奏法や、保育現場での活用法を学習します。また、合奏を通し、合奏指導法や、指揮法も学びます。

《テキスト》

『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育の歌12か月』
(新星出版社)

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- 楽器の基本的な知識及び奏法を理解し、演奏することができる。
- 楽器を使った音遊び、アンサンブル、合奏指導ができる。
- 保育者自身の音楽表現力及び実践力を向上させる。

《授業時間外学習》

授業で取り扱った曲は、各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%
平常点(授業中に指示する課題)30%
試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業の前後の挨拶を徹底します。15回のうち1回を学生コンサートに振替え、授業内容の順番を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	拍・リズムパターン	基本のリズム打ち・8ビート・ワルツ・チャチャチャ・サンバのリズム
2	リズム楽器①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(カスタネット・鈴・タンブリン)
3	リズム楽器②	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(トライアングル)
4	リズム楽器③ 合奏①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(ギロ・ウッドブロック・マラカス) 合奏練習①
5	打楽器① 合奏②	打楽器の奏法(小太鼓・大太鼓・シンバル) 合奏練習②
6	打楽器② 合奏③	打楽器の奏法(木琴・鉄琴・グロッケン) 合奏練習③
7	鍵盤楽器① 合奏④	鍵盤ハーモニカの指導法 合奏練習④
8	指揮法 合奏⑤	2・3・4拍子の指揮法 合奏練習⑤
9	曲の構成 合奏⑥	曲の構成や形式 合奏練習⑥
10	合曲想を生かした表現 合奏⑦	合奏における、曲想を生かした表現方法 合奏練習⑦
11	合奏発表	練習した曲を発表
12	編曲・アンサンブル①	子どもの歌をリズム合奏曲に編曲
13	編曲・アンサンブル②	編曲した曲をグループで発表
14	まとめ	理解度の確認
15	日本の伝統楽器	和太鼓を使ったリズム遊び

《学科教育科目》

科目名	器楽A	科目ナンバリング	C1011S◆●005
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能を身に付けます。個人レッスンでは、ピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。一方、集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）、『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）その他、進度に応じた教材を担当教員が指示します。

《参考図書》

『ブルグミュラー 25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- バイエル70番以上の曲を弾くことができる。
- 基礎的な歌唱技能を身に付けて、弾き歌いをするができる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多くつくる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき、点数化します。器楽Aはグレード2に合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途実施されるグレード試験も必要に応じて任意で受けること。*グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	器楽B	科目ナンバリング	C1012S◆○006
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

「器楽A」に引き続き、個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能をさらに高めます。個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

器楽Aと同じ
ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）
『ブルグミュラー25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- ブルグミュラー程度以上の楽曲が弾けるようになる。
- 弾き歌いの伴奏が余裕を持ってできるようになる。
- 表現豊かな歌唱ができるようになる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多く作る。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき点数化します。「器楽B」はグレード5を合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途に実施されるグレード試験も、必要に応じて任意で受けること。結果はコメントを付して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、グレード制の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な役割を担っているといえます。子どもの創造力は遊びを通して育まれます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生が作品制作を楽しみながら、自身の得意な領域を発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。子どもの作品に魅力を見いだすことができる。作品を制作するそれぞれの子ども達に対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

・描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。
・課題提出が遅れそうな場合は、担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、これからの授業計画を理解する。
2	描写ー1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
3	描写ー2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と水彩絵の具の効果を体験する。
4	描写ー3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写ー4（立方体）	画面構成と線・面の捉え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写ー5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
7	描写ー6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
8	描写ー7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
9	描写ー8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成ー1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成ー2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成ー3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成ー4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を作成し、提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特にない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C1012S◆○008
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作を行うことによって、造形力と発想力を鍛えることを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

・各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。作品制作のための準備物や資料等は時間外に調査・購入すること。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。
・課題提出が遅れそうな場合は担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	変身！被り物制作ー1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	変身！被り物制作ー2	さまざまな素材を使い、被り物制作を計画し、実行することができる。
4	変身！被り物制作ー3	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
5	変身！被り物制作ー4	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
6	変身！被り物制作ー5	完成した作品を作者が被り、演じる場面を写真に撮影し、制作の意図と効果を説明することができる。
7	立体作品制作ー1	設定されたテーマに添って、作品制作の意味と目的を理解し、制作の計画を立てることができる。イメージからラフスケッチを作成し、プランを絞り込むことができる。
8	立体作品制作ー2	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
9	立体作品制作ー3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
10	立体作品制作ー4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
11	立体作品制作ー5	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
12	立体作品制作ー6	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
13	立体作品制作ー7	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	作品撮影と展示効果の説明	完成作品を写真撮影し、作品の展示効果について理解することができる。
15	作品提出とまとめ	すべての作品を提出する。園における造形についての考え方と役割について、理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C1012S◆○008
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	影絵アイデアスケッチ	楽しい影絵劇の上演を目指して、グループ分けをし、題材・制作分担等を話し合うことができる。
2	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
3	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
4	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
5	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
6	影絵上演	分担を決め、楽しい影絵劇を上演することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
13	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
14	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
15	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A	科目ナンバリング	C1011SG G009
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、II期開講の幼児体育Bに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》

保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）“Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《学科教育科目》

科目名	保育原理A	科目ナンバリング	C1011SG G023
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

- 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。
- 自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
- 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意味	保育とは何か
2	保育の意味を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭－保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育・教育施設－子ども・子育て支援新制度
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針－保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした 保育制度の未来
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《テキスト》

『新・保育原理(第3版)－すばらしき保育の世界－(みらい2016)』『最新保育資料集2017』森上史朗編(ミネルヴァ書房 2017)『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『フレーベルの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984), 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『センスオブワンダー』 レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリエイティブ進化論』 道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008), 『教育・保育要領解説』(2015) またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使した保育教材の探求等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	C1012S-●025
担当者氏名	高谷 博之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。今後の社会的養護は、家庭的養護推進の方向であることを理解する。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解する。

《授業の到達目標》

- ・児童憲章、子どもの権利条約、社会的養護の基本理念と原理について理解し、説明できる。
- ・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》

- ・筆記テスト（70%）
 - ・課題レポート（30%）
- ・レポートにはコメントをつけて返却する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の現状	子どもを取り巻く環境、社会的養護を必要としている子どもについて、児童憲章、児童福祉のキーワードについて
2	児童養護の定義、児童虐待問題	児童養護の定義について、虐待の種類、虐待の社会的背景、発生要因、虐待への対応、オレンジリボン運動について
3	SIDS、捨てられ体験	乳幼児突然死症候群の死別反応の特徴、「喪の痛み」、「喪の過程」について、「捨てられ体験」からくる対人関係への影響、現実感の障害について
4	社会的養護の歴史と今日的課題	慈善救済事業の始まり、明治・大正時代、児童福祉法施行、ホスピタリズム論、子どもの権利条約、児童福祉施設最低基準について
5	社会的養護の基本理念と原理	「子どもの最善の利益のために」「社会全体で子どもを育む」について、「子どもの権利条約」について
6	施設養護の基本原則	基本的人権の尊重と情緒安定性の原理、集団と個の統一的原理、生活支援と学習支援保障の原理、親・家族関係の調整の原理、積極的社会参加促進の原理について
7	施設養護実践における専門性の課題	地域での協働子育てシステムの構築、自立支援計画票、チームケア、第三者評価、苦情解決について、要養護児童の発達課題、トラウマ、PTSD、軽度発達障害について
8	施設養護の実践と方法	施設養護の意義と目的について、「日常生活」や「自立支援」について
9	施設養護の実践と方法	「治療的援助」について、「親子関係・学校・地域との関係調整」について
10	地域の社会的養護機関	地域の相談機関、援助機関について、児童相談所の機能等について
11	次世代育成支援と地域の子育て支援	エンゼルプラン、新エンゼルプラン、少子化対策プラスワン、次世代育成支援対策推進法、「子ども・子育て新システム」について
12	地域の子育て家庭支援施策	子育て短期支援事業、特別支援教育、認定こども園、総合こども園について
13	施設養護の職員	施設職員に求められる倫理、職員の専門性の課題、専門職に求められる技術、ケースワークについて、施設運営と財政措置
14	児童養護における養育のあり方	子どもの養育論の確立、施設職員に求められる専門性、子どもが求めている大人像について
15	学習のまとめ	社会的養護の将来像、児童養護施設の将来像と課題について、筆記テスト

《テキスト》

シリーズ福祉新時代を学ぶ『新選・児童の社会的養護原理』
神戸賢次、喜多一憲・編（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと（予習、復習）

《備考》

- ・授業開始時に出欠の確認を行うため始業時間を厳守すること
- ・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、諸富 眞知子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・質問などはオフィスアワーで個別に対応します。指導案などの提出物は具体的に指導を入れて返却する。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 幼稚園の基本について	教育実習は、幼稚園免許状を取得するために必修科目として位置づけられていることを知る。幼稚園の基本について知る。
2	教育実習について 実習の意義と目的	教育実習の意義と目的について説明することができる。 幼稚園見学・観察実習・幼稚園参加指導指導実習の違いがわかる。
3	幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園現場を知る	ビデオを通して、幼稚園教諭の仕事と役割を理解し、幼稚園の現場を知る。
4	幼稚園の生活について	幼稚園の1日の流れを知り、目指そうとする保育者像を明確にする。
5	幼稚園見学	4週までの学習を基に、附属加古川幼稚園において、保育指導の実際、施設や環境構成について学ぶ。
6	幼稚園見学からの学びについて	幼稚園見学で学んだことをグループ討議をする。 グループでまとめたことを発表し、学んだことを共有する。
7	実習生の心得 マナー講座	実習生の心得を実技指導を交えて学習し、日常的に実践する力を養う。
8	幼稚園見学・観察	幼稚園生活を知る（3歳児・4歳児・5歳児の姿）
9	幼稚園見学からの学びについて	幼児の発達について（幼児理解）幼稚園見学から学んだことを討議し、まとめて発表することができる。
10	保育の実際（1）	保育実技について知る。（絵本の読み聞かせ・手遊び・歌・ゲームなど）
11	保育の実際（2）	実習記録の書き方を学ぶ。
12	保育の実際（3）	幼稚園の園庭、保育室から環境構成と記録の書き方を学ぶ。
13	保育の実際（4）	子どもの姿の捉え方と記録の書き方を学ぶ。
14	保育の実際（5）	観察記録から教師の援助について書き方を学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、諸富 眞知子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他(編)建帛社
 『保育実技』久富陽子(編)萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物(提出遅れは、減点する) 10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・質問などはオフィスアワーで個別に対応する。指導案などの提出物について具体的に指導を入れて返却する。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 1 実習資格条件並びに実習要綱の確認をする 教育実習の意義と課題①
2	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 2 教育実習の意義と課題②
3	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 3 実習日誌の書き方について(観察のポイント)
4	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 4 実習日誌の書き方について
5	事前指導 実習に向けて	教育実習に係る事前指導 5 実習日誌の書き方について
6	事前指導 実習に向けて	教育実習の心得と諸注意について再確認する
7	事後指導①	教育実習に係る事後指導 1 実習の自己評価
8	事後指導②	教育実習に係る事後指導 2 グループ討議による反省、評価及び課題の明確化
9	事後指導③	教育実習に係る事後指導 3 実習の意義、取り組むべき課題について発表
10	保育の実際①	指導案作成と教材研究
11	保育の実際②	指導案作成と教材研究
12	保育の実際③	指導案作成と教材研究
13	保育の実際④	模擬保育に取り組み、実習の実践力に繋げることができる。
14	保育の実際⑤	模擬保育に取り組み、実習の実践力に繋げることができる。
15	まとめ	これまでの学習内容から、その成果を説明し、実習への意欲に繋げることができる。

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1011S-●028
担当者氏名	石川 恵美、山村 けい子、古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				1年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 			

《授業の概要》

保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《テキスト》

決まったものではありません。実習の中で自分で探してください。

《参考図書》

各教科や「保育実習指導Ⅰ」で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《授業の到達目標》

1 保育所の役割や機能について具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ 4. 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《授業時間外学習》

積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。実習に入る少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止です。実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書いてください。

《成績評価の方法》

実習園の評価に、「保育実習指導Ⅰ」の受講状況を加味したもの（60%）、実習ノート（40%）。なお「保育実習Ⅰ」は保育所10日間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

実習園にも学校にも、ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）を忘れないこと。実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は、保育実習実施要項参照 各実習園にて見学観察実習を行う
2	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
3	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
4	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
5	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
6	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
7	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
8	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
9	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
10	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
11	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
12	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
13	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
14	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う
15	見学観察実習	各実習園にて見学観察実習を行う

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《保育所実習》		科目ナンバリング	C1011S-●029
担当者氏名	石川 恵美、山村 けい子、古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 			

《授業の概要》

保育所の見学観察実習に備え、乳幼児の理解及び、保育所の内容と機能について学び、生きた子ども観・保育観を習得する。また、実習の意義、具体的な内容、方法、心得等を事前に学習し、必要な手続きを行う。実習後、グループディスカッションを行い観察実習の課題達成度を話し合う。

《テキスト》

「実習日誌の書き方」 開 仁志 一藝社 2015年
 「これで安心！指導案の書き方」 北大路書房 2008年
 「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 2008年

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育所の社会的な役割と機能を学び、一日の保育の流れや設備について理解する。
- 保育を必要とする子どもと保護者の理解を深め、生きた子ども観と保育観を理解し、実習への意欲を高める。
- 保育士の役割とその内容を理解する。

《授業時間外学習》

- 居住地近くの保育所（園）を見学させてもらう（外からでも良い）
- トライやる・ウィークで保育所（園）を経験した人は、その内容を思い出し実習に生かせるようにする。
- 家事の手伝いを積極的にする。

《成績評価の方法》

事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）「保育実習指導 I」（施設）と連動しての総合評価とする。なお、「保育実習 I」と同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。実習園の評価をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

授業には実習にふさわしい服装と態度で臨むこと。欠席する場合は、必ず実習事務室に連絡を入れ、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保育実習とは（実習全体の説明） 保育士資格について ・保育所の概要と実習の意義
2	見学観察実習に向けて 1	実習事前準備 1
3	見学観察実習に向けて 2	実習事前準備 2
4	見学観察実習に向けて 3	実習事前準備 3
5	見学観察実習に向けて 4	実習事前準備 4
6	見学観察実習に向けて 5	実習事前準備 5
7	見学観察実習に向けて 6	実習事前準備 6
8	見学観察実習に向けて 7	実習事前準備 7
9	見学観察実習に向けて 8	実習事前準備 8
10	見学観察実習に向けて 9	実習事前準備 9
11	見学観察実習に向けて10	実習事前準備 10
12	見学観察実習に向けて11	実習事前準備 11
13	見学観察実習に向けて12	実習事前準備 12
14	見学観察実習を終えて	見学観察実習を終えての振り返りおよびグループディスカッション
15	見学観察実習を通して	見学観察実習の反省および参加指導実習の目標と課題まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C1011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
事後指導：報告書の作成（50%）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味/
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学 I	科目ナンバリング	C1011SG G034
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学 I では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずみについて理解することも目標とする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
『やさしく学ぶ保育の心理学 I・II』浜崎隆司ら編ナカニシヤ出版

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観・保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価 70%
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価 30%
試験終了後解説を行い、学習理解を深める

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学 I」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	さまざまな発達理論	ハヴィガースト、エリクソンなどの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。
5	胎生期の発達の特性と発達上の諸問題	胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。また、大脳生理の基礎的事項、出生前検診の概要を知り、理解を深める。
6	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題①	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
7	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題②	運動面、情動面、言語面などに焦点を当てて、乳児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
8	幼児期前期の発達の特性と発達上の諸問題	自我の芽生え、自己意識の形成などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
9	幼児期後期の発達の特性と発達上の諸問題	認知・思考の発達、社会性の発達などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
10	児童期の発達の特性と発達上の諸問題	児童期の発達に関して、仲間関係、学校生活の問題に焦点を当てて児童期の発達の特性について学ぶ
11	青年期の発達の特性と発達上の諸問題	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて、青年期の発達上の諸問題について学ぶ
12	成人期の発達の特性と発達上の諸問題	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
13	老年期の発達の特性と発達上の諸問題	老年期の発達に関して、定年後の社会や家族との関係に焦点を当てて、心理的諸問題について学ぶ
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

科目名	児童心理学	科目ナンバリング	C1021S◆○037
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。
 また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

- 子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できること。
- 特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価 70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価 30%
 試験終了後解説を行い、学習理解を深める

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

『はじめて学ぶ乳幼児の心理-こころの育ちと発達の支援』 桜井茂男（編） 有斐閣 2006

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献等を自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。
 また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。
 質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	児童心理学の概要について理解する。また、児童心理学を学ぶ意義について、子ども時代の発達の特徴について理解を深める。
2	大脳生理の基礎的事項/ 感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎的事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。
3	認知・思考および言語の 発達	ピアジェの認知発達理論について学び、認知思考の発達過程について理解を深める。象徴機能の発達と言語の発達について学び、適切な言葉かけについて考える。
4	人格の発達①自我の芽生え	乳幼児期の自我の発達について理解を深める。愛着とは何か。親子間の愛着形成の重要性、遊びや嫉との関係について理解を深める
5	人格の発達②欲求不満と 適応行動	欲求や葛藤について学び、防衛機制を通して適応行動と不適応行動についての理解を深める。欲求不満耐性を配慮した保育について考える
6	人格の発達③人格の発達 と環境	さまざまな人格理論を学んだうえで、文化的背景、親の養育態度など環境の与える影響について考える。
7	人格の発達④青年期の発 達課題の達成	職業選択、高等教育機関での学び、児童養護施設の子どもの事例などを通して、発達課題の達成と人格の成熟について考える
8	人格の発達⑤心の問題	各発達段階の特性を理解し、各発達段階で生じやすい心の問題について理解を深める。特に乳児期の母子相互作用、青年期の自我同一性の確立の面から考える
9	心の問題への支援	人格検査や心理療法の概要を理解し、カウンセリング・マインドおよびカウンセリングの基本を理解する。
10	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用方法について理解を深める。
11	発達障害①発達障害の概 要	広汎性発達障害、ADHD、学習障害などの発達障害の概要を理解する。
12	発達障害②発達障害児へ の支援	発達障害のある子どもへの基本的な支援についても考える。また、保護者に対する対応のあり方について学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども達①問題の概要	外国籍の子どもの問題、社会的貧困、家庭の養育の不良、児童虐待など子どもをめぐる諸問題の概要を理解し、その支援についても考える。
14	特別な支援が必要な子ども達②支援の方法	さまざまな問題を抱える子どもに対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	C1012S-〇039
担当者氏名	原 志津		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

『保育・教育に生きる臨床心理学』
 松島恭子監修・篠田美紀編著
 光生館 税別2200円

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どもこころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%
 授業内容の理解70%（まとめ①②③）
 まとめ①②についてはコメントをつけて返却
 まとめ③については全体的に講評を行う

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の基本的な考え方について知る
2	こころについての探求	フロイトの発見したことを知る
3	精神分析①	フロイトの精神分析について知る
4	精神分析②	フロイトの精神分析の用語を学ぶ
5	まとめ①	第4回までの授業のまとめ（筆記試験）
6	こころの世界の研究①	乳幼児のこころの世界①・・・メラニー・クラインの研究を知る
7	こころの世界の研究②	乳幼児のこころの世界②・・・マーガレット・マラーの研究を知る
8	こころの世界の研究③	乳幼児のこころの世界③・・・ウィニコットの研究を知る
9	こころの世界の研究④	乳幼児のこころの世界④・・・親子関係観察ビデオから学ぶ
10	まとめ②	第9回までのまとめ（筆記試験）
11	心理療法について①	ユングの心理学について知る
12	心理療法について②	箱庭療法を知る
13	心理療法について③	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリングを知る
15	まとめ③	第14回までのまとめ（筆記試験）

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C1012SG G041
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- [1] 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- [2] レポート課題等の提出物 30%（提出遅れは、減点）
- [3] 筆記試験 50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
2	保育者をめざす	何故、保育者をめざすかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める
3	保育職とは	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について深く学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。 （環境構成・生活のしかた・子ども同士を繋ぐ等々）
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。＜視聴覚教材＞
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者①	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親、園、社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《テキスト》

改訂保育者論 [第3版] 民秋 言 編著 建帛社

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省
 『保育所保育指針』 厚生労働省
 認定こども園教育・保育要領解説
 その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめる。

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論	科目ナンバリング	C1011SG G042
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養う。

《授業の到達目標》

- 教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
- 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、10%
- (2) レポート課題等の提出物 30%
- (3) 筆記テスト60%

《テキスト》

『保育課程論』
北野 幸子 編著 北大路書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省
『保育所保育指針解説』 厚生労働省
『認定こども園教育・保育要領解説』

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてくること。

《備考》

・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもの生活と比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C1011S◆●043
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い発達を願って、幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育するということの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い、保育技術を培う。

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、説明することができる
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感を持つ。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 40%
- 課題レポート 40%
- 受講態度 20%

・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

『保育内容総論』神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

- 『幼稚園教育要領』文部科学省
- 『保育所保育指針』厚生労働省
- 『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育内容とは	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
4	幼児期の遊びと学び	遊びを通して、子どもは何を学ぶのか考察する。
5	「命を守る」とは	東日本大震災から学ぶ。
6	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達過程について理解を深める。
7	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
8	子どもの育成と保育者の計画①	主体性をもった子どもの育成と保育計画について学ぶ。
9	子どもの育成と保育者の計画②	具体的に指導案を作成し、計画の重要性を知る。
10	指導計画と実践	作成した指導案に基づいて実践することにより、課題等を見出す。
11	保育の実際①	保育園の子どもの様子を知る。①（視聴覚教材）
12	保育の実際②	幼稚園の子どもの様子を知る。②（視聴覚教材）
13	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育を学ぶ。
14	保・幼・小の交流	交流の成果と課題
15	授業のまとめ	授業の振り返り

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C1011S◆●043
担当者氏名	青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育することの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い保育技術を培う。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的な事例や演習を通して理解し、説明することができる。
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 40%
- 課題レポート 40%
- 受講態度 20%

・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

《テキスト》

生活事例から始める『保育内容総論』
神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
内閣府・文部科学省告示第1号・厚生労働省
『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育の基本と保育内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	幼稚園・保育所・認定こども園の比較	幼稚園、保育所、認定こども園の保育内容や管轄、法令等の違いを理解する。
4	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達の過程について理解を深める。
5	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
6	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
7	幼児期の遊びと学び	遊びを通して子どもは何を学ぶのかを考察する。
8	子どもの遊びと指導計画①	「発達の壁を乗り越える」4歳児の発達の特徴について学ぶ。
9	子どもの遊びと指導計画②	「育ちあい、学び合う」就学へつないでいく保幼小連携について学ぶ。
10	子どもの生活と保育	保育の1日の流れを理解し、その指導方法や保育の形態を知る。
11	保育内容の変遷	明治から現在に至るまで、それぞれの時代の社会的背景の影響を受けて変化してきた保育内容の歴史の変遷を学ぶ。
12	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とはについて学ぶ。
13	「命を守る」とは	震災を通して命の大切さを学ぶ。
14	保育の多様な展開	子どもの発達と社会の要求に即した保育の工夫や様々な事情を持つ子どもの保育について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C1012S◆●045
担当者氏名	山村 けい子、諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人とかかわりのなかで培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要綱等の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉かけ、支援、援助を学ぶ。乳幼児の良き支援者になるために積極的な関心と柔軟心を身につける。常に考える態度で臨み、知識、技能が身につくようにし、また、保護者対応についても保育の方法や実践力を習得する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、レポート（20%）授業態度（10%）
レポートは、コメントを付して返却をする。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』、文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』厚生労働省、文部科学省、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

小田豊・奥野正義編著（2015）『保育内容 人間関係』北大路書房
授業中に適宜知らせる。適宜プリント配布する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。
レポートの提出は、必ず期限を守る。
保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高める努力をする。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標の理解をする。『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解をする。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。
3	乳幼児教育の新たな位置づけと領域「人間関係」	今までの「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらい、内容を理解する。
4	「人間関係」の発達とその問題	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、幼児期の人間関係の特徴、乳幼児期にの人間関係の発達における問題を理解する。
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	あそびと人間関係、人とかかわりの実際と子どもの育ち、人とかかわりを育てる保育者の援助を理解する。
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育っている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について理解をする。
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。
13	人間関係の育ちを促す地域子育て支援	人間関係の育ちを促す地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを促す地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	地域とともに子育てをする、これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。授業内でレポートを書き、内容を検討し、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C1012S◆●045
担当者氏名	諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人とかかわりのなかで培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要綱等の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉かけ、支援、援助を学ぶ。乳幼児の良き支援者になるために積極的な関心と柔軟心を身につける。常に考える態度で臨み、知識、技能が身につくようにし、また、保護者対応についても保育の方法や実践力を習得する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、レポート（20%）授業態度（10%）
 レポートは、コメントを付して返却をする。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』、文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』厚生労働省、文部科学省、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

小田豊・奥野正義編著（2015）『保育内容 人間関係』北大路書房
 授業中に適宜知らせる。適宜プリント配布する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。
 レポートの提出は、必ず期限を守る。
 保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高める努力をする。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標の理解をする。『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解をする。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。
3	乳幼児教育の新たな位置づけと領域「人間関係」	今までの「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらい、内容を理解する。
4	「人間関係」の発達とその問題	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、幼児期の人間関係の特徴、乳幼児期にの人間関係の発達における問題を理解する。
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	あそびと人間関係、人とかかわりの実際と子どもの育ち、人とかかわりを育てる保育者の援助を理解する。
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育っている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について理解をする。
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。
13	人間関係の育ちを促す地域子育て支援	人間関係の育ちを促す地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを促す地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	地域とともに子育てをする、これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。授業内でレポートを書き、内容を検討し、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C1012S◆●047
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人とかかわりを通して言葉を獲得していく。

また、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013年

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008年
 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年
 その他、適宜講義時に紹介する。

《授業の到達目標》

乳幼児期の「言葉」の発達を知り、その獲得とプロセスを学ぶ。また、保育者としての援助方法を考える。

《授業時間外学習》

子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《成績評価の方法》

筆記試験 50%
 創作絵本 20%
 授業への取り組み姿勢 30%
 筆記試験後、解説を行う

《備考》

・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
 ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	○講義の概要 ○履修上の注意 ○授業の進め方 ○絵本の読み聞かせの意義について
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシミュレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践（1）保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践（2）幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会（1）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	創作絵本発表会（2）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
15	まとめ	筆記試験、授業理解の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現B	科目ナンバリング	C1012S◆●049
担当者氏名	井上 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」に示されているねらいや内容を踏まえて、音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びます。そして、その指導法について習得し、保育現場での実践力へとつなげます。また、諸感覚を通した様々な表現活動を体験する中で、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《授業の到達目標》

- (1) 総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解する。
- (2) 幼児の多様な表現に気付き、引き出すことができる感性を磨く。
- (3) 感じたことや思いを意欲的に表すことができる表現力を身に付ける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み25%、提出課題25%
 実技試験25%、筆記試験25%
 ※実技試験後には講評を伝える。また最終試験後には解説を行います。

《テキスト》

『手あそび、体あそび、わらべうたがいっぱい あそびうた大全集200』細田淳子編著、永岡書店、2014

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008

《授業時間外学習》

授業内で得た知識及び内容は各自復習を行い、教育実習や保育実習の際に活用できるようにしておくこと。特に毎授業で習得した手遊びは、自信をもってできるようにしておくこと。

《備考》

体験による学習を主体としますので、授業への積極的な取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心をひらく	・オリエンテーション ・表現とは ・ペア・グループによるコミュニケーション活動
2	感覚をひらく①	・サウンドマップづくり ・音、色、形を感じる
3	感覚をひらく②	・じっくり見る、耳を澄ます、イメージを広げる
4	音楽と造形をつなぐ	・音を絵にする、絵を音にする ・図形楽譜づくり
5	子どもの表現発達	・子どもの表現の発達について知る
6	言葉を介して①	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本を用いて
7	言葉を介して②	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本をつくる
8	音をつくる①	・様々な素材から音を見つける ・音の出るおもちゃづくり
9	音をつくる②	・楽器づくり ・手作り楽器を用いた表現活動
10	身体を使って	・音に反応して動く ・音楽に合う身体表現を考える
11	「表現」の基本的理解	・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容について理解する
12	演じる①	・物語を演じる①
13	演じる②	・物語を演じる②
14	演じる③	・グループ発表
15	学習のまとめ	・理解度の確認

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C1012S◆-050
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

- 過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。
- 主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。
- 自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。
 分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。
 提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房 2009）
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）、『マインド・ストーム』シモア・ペパート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）、『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）、『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）、その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現や保育実践を見ての感想等）。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	保育方法といっても特定の方法がある訳ではない
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レッジョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互惠性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	乳児保育A	科目ナンバリング	C1011S-●052
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育所・乳児院・家庭保育における「乳児保育」について学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を知り、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。0、1、2歳児の発達の道すじと保育の方法について学ぶ。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

- 乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な課題を考察する。
- 0歳児、1歳児、2歳児の子どもの発達を理解する。
- 乳児保育の保育内容をDVD視聴と演習を通して理解する。

《授業時間外学習》

乳児の発達に基づいた手作りおもちゃを作成する。乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方の提起。保育所など乳児のいる所に行きできるだけ触れるようにする。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 50%
- 作品・レポート提出・授業内発表 30%
- 授業にとり組む姿勢 20%
- 筆記試験後、解説を行う

《備考》

- ・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
- ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	○乳児の概念、乳児保育の概念について ○DVD視聴『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	○女性労働と乳児保育の関わり ○乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達Ⅰ	0歳児前半 DVD視聴『赤ちゃんの一年・前編』 母子関係の形成と人間らしさの発見
4	乳児の発達Ⅱ	0歳児後半 DVD視聴『赤ちゃんの一年・後編』 0歳児の発達の道すじと特徴
5	乳児の発達Ⅲ	1歳児 DVD視聴『乳児保育の実際1』 1歳児の発達の道すじと特徴
6	乳児の発達Ⅳ	2歳児 DVD視聴『乳児保育の実際2』 2歳児の発達の道すじと特徴
7	0歳児の生活と保育者の関わり	オムツ交換 食事、排泄、睡眠等
8	1、2歳児の生活と保育者の関わり	基本的な生活習慣の自立
9	0、1、2歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ 手作りおもちゃの作成
10	あそびの演習①	お散歩マップの作成
11	あそびの演習②	お散歩マップの作成
12	あそびの演習③	お散歩マップの作成・発表
13	乳児院での保育	乳児院での保育の実際 DVD視聴『乳児院の一日』
14	家庭との連携・乳児と家庭を取り巻く現状	保護者への援助、家庭・地域との連携方法 地域の子育て支援を考える
15	まとめ	筆記試験、授業理解の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 A	科目ナンバリング	C1012S-●054
担当者氏名	柳田 洋		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達の基礎』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。
 適宜、レポート等の提出を課す。
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害①	障害の理解
9	知的障害②	保育上の留意点
10	広汎性発達障害①	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害②	保育上の留意点
12	自閉症①	障害の理解
13	自閉症②	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり

平成28（2016）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C	科目ナンバリング	C1021S-0003
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

2クラス合同の授業ですが、隔週で集団授業⇄ピアノ個人レッスンとクラスが入れ替わります。集団授業では伴奏付け、律動のピアノ、即興演奏、初見演奏の訓練などをします。ピアノ個人レッスンでは、実習や就職試験に備えて、演奏力の向上を目指すとともに、レパートリーを増やします。

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材
 【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- マーチやスキップなどのリズム曲を弾くことができる。
- 電子ピアノの機能を生かして、様々な情景や動物等のイメージに合った伴奏を考えたり、弾いたりすることができる。
- 実習や就職試験に備え、自信をもってピアノ演奏や弾き歌いを行うことができる。
- ピアノ曲、弾き歌いのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

各自、毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

実技試験100%（ピアノグレード試験・集団授業内での小試験）
 試験結果はコメントを付して返却する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
3	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
4	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
5	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
6	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
7	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
8	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
9	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
10	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
11	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
12	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
13	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
14	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）
15	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D	科目ナンバリング	C1022S-0004
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

3クラスが2つに分かれて、集団授業⇔個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、履修人数を考慮しながら、合唱、ボイスアンサンブル、トーンチャイム、ボディパーカッションなどのアンサンブルを行います。また個人レッスンでは、実習や就職試験に備えてピアノの個人指導を受けます。

《テキスト》

【集団授業】適宜プリントを配布
 【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて、担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 様々なアンサンブル活動を通して、表現力を磨くとともに、聴く耳、協調性を育む。
- 様々なアンサンブル活動に関する指導法や指揮法を学び、保育者自身の実践力を高める。
- レパートリーを増やししながら、より表現豊かなピアノ演奏、弾き歌いができるようになる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

- 実技試験100%
- ※グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

学生コンサートの実施により、15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替えることもあります。また、履修者の人数によって、内容、回数を変更する場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	アンサンブルとピアノ①	【集団授業】トーンチャイムを使って① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
3	アンサンブルとピアノ②	【集団授業】トーンチャイムを使って② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
4	アンサンブルとピアノ③	【集団授業】ミュージックベルを使って 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
5	合唱とピアノ①	【集団授業】合唱練習と指揮法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
6	合唱とピアノ②	【集団授業】合唱練習と指揮法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
7	合唱とピアノ③	【集団授業】合唱練習と指揮法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
8	合唱とピアノ④	【集団授業】合唱練習と合唱指導法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
9	合唱とピアノ⑤	【集団授業】合唱練習と合唱指導法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
10	合唱とピアノ⑥	【集団授業】合唱練習と合唱指導法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
11	様々なアンサンブル①	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
12	様々なアンサンブル②	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
13	様々なアンサンブル③	【集団授業】アカペラ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
14	様々なアンサンブル④	【集団授業】ボディパーカッション 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
15	まとめ	期末発表(ピアノ・弾き歌い)

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	C1021S-●015
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店

《参考図書》

子どもの保健1A・1Bで使用したテキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応がすばやくできるようになる。
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置を行うか、をイメージしておく。また、実習時、園児の病気や怪我の時にどのような対応・応急手当をされていたかを想起して、講義に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・講義（実習）に臨む態度（10%）
- ・学期末テスト（90%）

《備考》

実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができないため注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能の想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と見落としはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるように記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解しその対応ができるようになり、必要に応じて薬法の当て方や与薬の方法がわかる。
4	乳幼児の養護	発達段階に応じたの抱っこのしかた・衣服の着脱・おむつの当て方をモデル人形を使用して実際に行うことができ、注意点がわかる。
5	清潔の指導① —手洗いを通して—	発達段階に応じたの手洗いの目標と手洗い方法についてわかる。
6	清潔の指導② —手洗いを通して—	細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、園児に指導することができる。
7	清潔の指導 —むし歯予防—	発達段階に応じたのむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、保育士・幼稚園教諭には危機管理のしかたがわかっていることがわかる。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して体験し「なぜか？」の理由がわかる。
11	応急手当	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当のしかたがわかり、包帯の巻き方を実際に行う。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオに載っていない、応急手当の頭部外傷・骨折の症状と病院に搬送するまでの応急手当がわかる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じたの心肺蘇生法のしかたがわかる。
14	救急蘇生法を実際に行う。	心肺蘇生法用のモデル人形を用いて、子どもの命を助けることができるように、発達段階に応じた心肺蘇生法ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

科目名	子どもの食と栄養 A	科目ナンバリング	C1021S-●016
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもにとっての「食」は心身の健康と発達に重要である。保育士として、子どもの食に関する支援に必要な知識を習得し、実践力につなげていく。
 身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期のミルクや離乳食、幼児期の食生活、また食物アレルギーの実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発達段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート・課題提出 40% (提出遅れは減点)
- (2) 期末試験 60% (テキスト等の持ち込み不可)
- (3) 受講態度が悪ければ減点

※返却レポートにはコメントを付す

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
 堤ちはる・土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「食べない子が食べてくれる幼児食」
 加藤初枝/井桁容子著 女子栄養大学出版社
 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
 厚生労働省 平成23年3月
 「幼児期の保育と食育—保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
 小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社

《授業時間外学習》

授業内容について再確認のために教科書をよく見直しておくこと。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、食事内容を考えるようにすること。

《備考》

学外実習で子どもたちの食環境について学んでください。受講態度での減点は、居眠りや私語、教科書忘れ、授業に関係のないもの（スマホ等）を使用するなどの場合。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康および食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを説明することができる。
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育と栄養状態の評価、食べる機能・消化吸収機能の発達、排せつ機能を理解し、幼児に食べたものがどうなるのかをわかりやすく説明することができる。
3	栄養に関する基本的知識	食品の分類を楽しい教材の使用により理解する。食べ物の働きを幼児にわかりやすく説明する方法を考案できる。
4	栄養に関する基本的知識	糖質、脂質について理解する。
5	栄養に関する基本的知識	たんぱく質、ビタミン、ミネラルについて理解する。水分の機能についても理解する。
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	育児用ミルクの種類や特徴、冷凍母乳の取り扱いについて理解する。離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。
7	人工乳栄養と離乳	無菌操作法による調乳の実際について学ぶ。
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
9	児童福祉施設における食事と栄養	保育所給食の実際を理解し、保育士としての役割や保育者とのかかわりについて学ぶ。
10	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設の食事の役割、栄養管理のあり方、食育のあり方について理解する。
11	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係を理解する。幼児期の食生活の特徴を理解し、食事支援の方法を学ぶ。
12	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食の意義と食生活の問題点について理解し、適切なおやつを考案できる。
13	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し、指導法を考案できる。
14	献立作成と調理の基本	食中毒の知識を得る。幼児期に適した調理の基本を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

科目名	子どもの食と栄養B	科目ナンバリング	C1022S-●017
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼児期は一生の食生活の基本が身につく時であり、「楽しく食べる子ども」に成長できるよう保育士の関わりは重要である。食育の基本と内容について学び、保育の中に食育を取り込む実践力につなげる。日々の食事バランスについて理解し、献立の考案、また調理保育の計画と模擬実習も行う。さらに体調不良時や障がいのある子どもの食生活について学ぶ。

《授業の到達目標》

- 食事バランスがわかり適切な食事内容を考案することができる。
- 子ども主体で安全に調理する調理保育計画を立てることができる。
- 体調不良時や障がいのある子どもに応じた食事の与え方が判断できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート・課題提出 40% (提出遅れは減点)
- (2) 期末試験 60% (テキスト等の持ち込み不可)
- (3) 受講態度が悪ければ減点

※返却レポートにはコメントを付す

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食育の基本と内容	食育基本法について学ぶ。保育所、幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
2	食育の基本と内容	食育のための環境、地域の関係機関との連携、食を通じた保護者への支援について理解する。
3	食育の基本と内容	幼稚園参加指導実習での食育内容をクラスで発表し、他園での食育内容の情報を得る。
4	食事摂取基準と献立作成	食事摂取基準とは何か、食事摂取基準はどのように使用すればよいのかを理解する。各栄養素のとり方を理解できる。
5	食事バランスガイド 家庭における食事と栄養	食事バランスガイドについて学ぶ。自分の食事の現状把握と改善箇所を見つけることができる。また乳児期・幼児期の家庭における食事の役割について理解する。
6	献立作成と調理の基本	調理の基本操作がわかり、調理保育にふさわしい内容を考えることができる。
7	調理保育の模擬実習計画	調理保育で、園児に楽しく安全に調理を実践させるための計画をたてることができる。
8	調理保育の模擬実習	調理保育の計画に基づき模擬実習を行い、理解を深める。
9	妊娠期（胎児期）の食生活	妊娠期の母体の変化、胎児の発育、妊娠期の栄養と食生活について理解する。
10	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	乳幼児期の咀嚼や嚥下の発達を理解し、援助の仕方を理解する。
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの食事対応を理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障がいのある子どもへの食事対応を理解する。
13	学童期・思春期の心身の発達と食生活	学童期・思春期の身体特徴、食生活の特徴、問題点を理解する。学校給食の目標、栄養管理、衛生管理、食に関する指導について理解する。
14	生涯発達と食生活	生涯発達と加齢変化をふまえ、成人期・高齢期の食生活上の問題と健康への対応を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
堤ちはる/土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「幼児期の保育と食育—保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社
「食を育む—食育実践ガイドブック」師岡 章監修 フレール館
「食育のアイデア 実践ガイド」吉田 隆子監修 メイト
「子どもと作る食育レシピ12か月」小西律子著 ファイルド本社
「そしゃくと嚥下の発達がわかる本」山崎祥子 芽ばえ社

《授業時間外学習》

授業内容について再確認のために教科書をよく見直しておくこと。また授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むようにすること。

《備考》

受講態度での減点は、居眠りや私語、教科書忘れ、授業に関係のないもの（スマホ等）を使用するなどの場合。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	C1022S-●018
担当者氏名	太田 颯子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

乳幼児期、子どもが適切な環境の中で育っていく上で家庭の役割は非常に大きい。しかし現代においては少子化や核家族化等に伴い育児不安の高まりや教育力の低下が指摘されている。また、それを支える地域の教育力の低下も指摘されている。そのような背景において近年子育て家庭が機能することを支える役割が保育者に求められている。本講義では近年の背景を踏まえた家庭支援の在り方について学ぶ。

《授業の到達目標》

- 保育者が保育の専門性に基づく固有の理念や方法をもって行う家庭支援の在り方について主体的に考えることができる。
- 保育所や幼稚園、福祉機関での事例を検討しながら実践的に学習することにより、保育現場等で起こりうる諸問題に対し、見通しをもつ力を身につける。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論への参加、授業態度20%
- (2) レポート課題20%
- (3) 定期試験60% (テキスト・自筆ノート・配付資料の持ち込み可) ※レポートにはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て家庭の歴史	何故今家庭支援が求められているのか、その理念と構造、意義について歴史的な背景を知ると共に理解する。
2	家族・家庭の現状	現代社会において家族が抱える問題について、その特性を説明することができる。
3	子どもにとっての家族と家庭	発達に応じた家族の役割について乳幼児期における家族の姿やその問題点について理解説明することができる。
4	子育て家庭支援の必要性	乳幼児期における保育者の役割、姿勢について、保育スキルを用いた現場での事例から考察する。
5	子育て支援の法的な制度	子育て支援に関わる法的な制度、保育サービス等について説明することができる。
6	次世代育成支援施策	子育て支援に関する法的な制度の変遷を知り様々な子育て支援について説明することができる。
7	子育て家庭支援の制度と関係機関	子育て支援に携わる様々な機関の役割と福祉サービスについて説明することができる。
8	子育て家庭支援の方法・やり方(DVD視聴)	支援を必要とする家庭が抱える問題について、その特性を理解し説明をすることができる。
9	自己修復力のある家庭への支援	家庭支援の具体的な方法及び保育者の役割について理解する。
10	特別な対応を要する家庭への支援	家庭支援の必要なケースにおける展開過程と評価、終結について理解する。
11	障害のある子どもの家族への支援DVD視聴	障害のある子どもをもつ親への支援の必要性について説明することができる。
12	危機的状況にある家庭への支援	保育現場における相談事例に基づき援助の計画を立てることができる。
13	相談事例の検討①	援助計画の評価方法について理解する。
14	相談事例の検討②	保育現場における相談事例から、他機関との連携を視野に入れた援助の在り方について計画を立てることができる。
15	これからの保育者の専門性 家庭支援とは	これからの保育者に求められるスキル、固有の理念について今後の展望について説明することができる。

《テキスト》

『学び、考え、実践料をつける家庭支援論』
木村志保・津田尚子編、保育出版社、2014

《参考図書》

『よくわかる家庭支援論』橋本真紀・山縣文治編、ミネルヴァ書房
『発達障害の子どもを育てる家族への支援』
柘植雅義・井上雅彦編著、金子書房、2010
『家族心理臨床の実際-保育カウンセリングを中心に』
上里一郎監修・滝口俊子・東山弘子編、ゆまに書房、2008

《授業時間外学習》

- 1) 事前学習としてテキストに目を通し、各章の「現場の声」予習欄に自身の意見や感想を記入しておくこと。
- 2) 復習として授業内容を再確認し、各章の最後のページにある要約と感想を記入しておくこと。不明な点は質問するもしくは調べる等して、必ず解決しておくこと。

《備考》

近年保護者や地域社会への適切な援助が保育者の専門性として求められています。「信頼される保育者とはどのような保育者であるか」という問いをもち授業に臨んでください。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C1021SG G019
担当者氏名	山東 綾乃		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 社会福祉』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
 - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。
なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S-●020
担当者氏名	古川 督		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

相談援助とは、さまざまな福祉課題を抱える人や子どもに対して、相談や制度・サービスの調整をとおして課題解決を図る具体的な方法や技術のことである。本科目では、保育における事例検討やロールプレイなどを通して、相談援助の歴史や理論、方法、技術を学習することで、保育専門職に必要な相談援助の力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 相談援助の歴史や理論、方法を理解する。
 - (2) 相談援助者としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育場面で求められる相談援助の実践力を身につける
- 以上のことを通して、保育実践における相談援助の価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、講義の内容をふまえて、普段から子ども・家庭の抱える問題に関心を持ち、そこに存在する福祉課題が何かを考えてみるようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度も含む30%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（50%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

体験・参加型の講義が中心となるので、積極的な態度で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（相談援助の概要）	社会福祉の視点からみる今日的課題を概観し、保育専門職に求められる相談援助とは何かを理解する。
2	相談援助の価値と倫理	相談援助を行う上で基盤となる価値や倫理について、社会福祉士の倫理綱領や行動規範などから理解する。
3	保育と相談援助	保育所や児童福祉施設における今日的な課題をふまえて、保育相談援助の基本的な理念や意義を学ぶ。
4	相談援助の理論と実践 ①：相談援助の実践モデル	相談援助の多様な実践モデルについて、それぞれの視点や特徴を理解するとともに、問題状況や課題に応じた活用方法について学習する。
5	相談援助の理論と実践 ②：相談援助の展開過程	相談援助の展開過程について、各局面（エンゲージメント、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、評価・終結）の目的や機能を理解する。
6	相談援助の方法①：相談援助のアプローチ	相談援助の多様なアプローチについて、それぞれの目的や対象、方法を理解するとともに、問題状況やニーズに応じて適切に活用する実践力を身につける。
7	相談援助の方法②：社会資源の調整・開発	問題解決やニーズの実現にむけて、相談援助者に求められる社会資源の調整（コーディネート）方法や、開発（ソーシャルアクション）方法について学習する。
8	相談援助の方法③：多機関・職種との連携・協働	相談援助にかかわる機関・職種の役割や業務を理解するとともに、支援や援助に必要な機関・職種との連携・協働方法を学習する。
9	相談援助の技術と技法 ①：自己覚知と他者理解	相談援助者としての自己覚知の重要性を理解するとともに、自己覚知を深めるためのスーパービジョンについても学習する。
10	相談援助の技術と技法 ②：面接技法	相談援助における面接技法とコミュニケーションについて、ロールプレイを行いながら体験的に習得する。
11	相談援助の技術と技法 ③：グループワークの方法	相談援助や保育実践において活用できるグループワークの原則、またグループ活動を効果的に行うための方法や技術について学習する。
12	相談援助の技術と技法 ④：記録技法	相談援助を進めていくために必要となる記録技法や記録の種類、書き方を習得する。
13	事例研究①：家庭支援における相談援助	保育所や児童養護施設などにおける相談援助の事例をもちいて、家庭支援における相談援助を理解する。
14	事例研究②：発達支援における相談援助	児童発達支援センターや障害児施設などにおける相談援助の事例を用いて、発達支援における相談援助を理解する。
15	学習のまとめ	相談援助の方法や技術を振り返り、学習内容を保育専門職としての実践でどのように活用できるかを考察する。

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S-●020
担当者氏名	丸目 満弓		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイや個人ワーク及びグループワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①相談援助の基本的な知識を身につける。
- ②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
- ③援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

新聞に目を通すなどして、保育や福祉分野で何が起きているのかを把握するよう努めてください。そして、日頃から複眼的な視点でものごとを捉える“クセ”をつけて下さい。復習がとても大切です。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%
 授業中のレポート・テスト及び課題 40%
 筆記試験を実施した後、解説を行う

《備考》

授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ。
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ。
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ。
6	ソーシャルワーク実践の方法	ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ。
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ。
9	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ。
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ。
11	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行った後、筆記試験を実施する。筆記試験後に解説を行う。

《学科教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C1021SG G022
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

現代社会が急速に変化するなかでどのような教育が求められるのか、或いは、人間社会において不変的で本質的な教育課題はあるのか、あるとするならそれはどのようなものであるのか、このような事柄を念頭に置いて、教育にかかわる諸問題を多様な側面から考察する。特に、人間の成長や発達にとって必要で不可欠な「教育」の機能や役割、意義について、教育の社会的、歴史的、人間学的観点から理解できるようにしたい。

《授業の到達目標》

教育問題に関わる現代社会の構造的な変化と課題、とりわけ幼児教育や保育分野にある今日的な課題への理解を通して、教育や保育自体がもつ機能について洞察できるようにする。そのためにも、現在の教育的な課題の把握と考察、教育の歴史と理念、教育方法論と学習形態論について学ぶことで、教育の必要性と役割、そしてその意味や意義を理解できるようにする。総じて、人間にとっての教育の意味の把握に努める。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）、および学期末の試験（70%）で評価する。試験内容や評価基準等について講評を行う。

《テキスト》

『新保育士養成講座第2巻 教育原理』新保育士養成講座編纂委員会/編、改訂第2版、2015。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。
プリント資料を配布する。

《授業時間外学習》

教科書、ノート、プリント資料をよく読み、平常のレポートや学期末の試験に臨む。
配布された資料や自分で収集した資料を用いて、レポート課題に対応できるようにする。

《備考》

授業中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。レポートは、必ず、ホッチキス止めをして提出する。出席要件に注意して受講する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的な課題と教育の問題	幼児教育や保育をめぐる昨今の社会的な動向と課題について学び、成長・発達の初期段階にある人間のおかれた社会的な環境とそこにみられる課題について知る。
2	教育の定義	「教育」と「形成」、「教育」と「保育」の機能について理解する。 「教育」と「保育」の語が用いられてきた歴史的経緯について知る。
3	保育の環境や方法における教育の視点	人間にとっての「環境」の意味や環境を通じた教育の意義について学ぶ。また、保育の計画性と教育課程の関連性への理解を通して、意図的教育の意味について考察する。
4	教育の意義と目的	「教育」の文字に込められている教育の意義と役割について学び、歴史にみられる教育の目的について知る。
5	幼児教育および保育の目的・目標・ねらい	幼稚園教育要領や保育指針、その他の教育法規に定められた教育の目的や目標を通して現在の教育や保育に求められている事柄について学ぶ。
6	教育における社会化の問題	人間にとっての文化の意味と役割について学び、社会化の過程と学習の関係について理解する。
7	社会化に関わる諸問題	社会化とアイデンティティの形成、子どもの主体性の形成と教育の関係について考察する。
8	教育の基礎的概念と諸理論(1)	西欧における近代教育の樹立について学ぶ。とくに体系的教育学と子どもの発見について理解する。
9	教育の基礎的概念と諸理論(2)	作業教育の歴史と幼稚園の創設について学ぶ。
10	教育の基礎的概念と諸理論(3)	経験主義的教育理論および感覚訓練による教育法の開発について学ぶ。
11	日本の教育思想と子ども観(1)	江戸時代の教育施設と教育思想について学ぶ。
12	日本の教育思想と子ども観(2)	明治初期の教育理論について学ぶ。
13	日本の教育思想と子ども観(3)	大正期・昭和初期の教育理論について学ぶ。
14	現代教育の課題と人間教育の意義	現代社会のなかの教育問題と不変的な人間教育の意義について、改めて考察する。
15	まとめ	筆記試験を行い、学習内容の理解と考察を深める。

科目名	保育原理B	科目ナンバリング	C1022S-〇024
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

養護と教育の一体性とその意義について考察し、具体的な保育活動のなかでどのようにそれらが展開されるのか、さらに、保育活動と環境、生活と遊びの活動を5つの領域から理解し、そこでの保育者の援助と専門性の向上に向けた取り組みのあり方について教科書やその他の資料、視聴覚教材を通して概説する。

《テキスト》

乙訓稔監修『保育原理－保育士と幼稚園教諭を志す人に－』東信堂2014年初版第1刷

《参考図書》

そのつど紹介する。
適時資料を配布する。

《授業の到達目標》

保育の意義について理解するとともに、保育の領域と子どもの活動である生活と遊びの総合的な活動全体を見通すことができるようにする。また、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の目的や目標、ねらいと内容について改めて理解し、それらと保育活動の関連について考察できるようにしたい。

《授業時間外学習》

教科書やノート、配付資料をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内容で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げることができるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（30%）および学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。レポート課題の内容や評価基準等について講評を行う。

《備考》

授業中の私語や携帯電話・メール等の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の意義	保育と教育の概念と社会的意義について理解する。
2	保育所保育と幼稚園教育の基本	養護と教育の一体性、環境の意味と機能について理解する。
3	環境を通して行う保育について	保育活動の事例を通して、人と自然、環境と保育活動のあり方について考察する。 領域「環境」に関する課題
4	表現活動としての保育活動について 1.	幼児期の社会的スキルの育成と表現活動について考察する。 領域「言葉」「人間関係」に関する課題
5	表現活動としての保育活動について 2.	幼児期の育ちにおける造形表現、身体表現、音楽表現の意義について考察する。 領域「表現」に関する課題
6	生活と遊びの活動としての保育活動 1.	乳幼児期にふさわしい生活と生活体験の展開について理解する。 領域「健康」に関する課題、生きる力を培う保育カリキュラム
7	生活と遊びの活動としての保育活動 2.	保育者の援助－生活、運動、安全に対する配慮について考察する。 集団における生活習慣の定着
8	生活と遊びの活動としての保育活動 3.	遊びの本質と意義、幼児期にふさわしい遊びの体験について考察する。 好きな遊びやクラスで取り組む活動
9	特長的な保育実践の理論と展開 1.	フレーベルの幼児教育論について学ぶ。
10	特長的な保育実践の理論と展開 2.	フレーベル幼稚園の保育活動
11	特長的な保育実践の理論と展開 3.	モンテッソーリの幼児教育論について学ぶ。
12	特長的な保育実践の理論と展開 4.	モンテッソーリ「子どもの家」の保育活動
13	特長的な保育実践の理論と展開 5.	シュタイナーの幼児教育論について学ぶ。
14	特長的な保育実践の理論と展開 6.	シュタイナー幼稚園の保育活動
15	まとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援	科目ナンバリング	C1022S-●026
担当者氏名	高見 スマ子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるよう学習する。

《テキスト》

別途支持

《参考図書》

授業中適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
- 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解し、保育所等の児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

授業前に前回の授業の復習をしておくこと。社会の動きに敏感になるために新聞を読もう。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポート及びテスト（20%） 筆記試験（80%）

《備考》

配布した資料をよく読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点-1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点-2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本-1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本-2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開-1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開-2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援-1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援-2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者への保育相談支援-1	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者への保育相談支援-2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援-1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援-2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援-1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援-2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、三宅 美由紀		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

- ・ 実習における評価 70%
- ・ 授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・ 発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・ 質問などはオフィスアワーで個別に対応する。指導案など提出物は具体的に指導内容を入れて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (1) 目的と意義
2	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (2) 準備と心得
3	事前指導 (1)	指導案の作成と実際 (3歳児) 子どもの発達を理解する。
4	事前指導 (2)	指導案の作成と実際 (4歳児) 子どもの発達を理解する。
5	事前指導 (3)	指導案の作成と実際 (5歳児) 子どもの発達を理解する。
6	事前指導 (4)	附属加古川幼稚園を参観 (3・4・5歳児) し、視点に沿った記録をとることができる 環境構成・幼児の活動・教師の援助
7	事前指導 (5)	模擬保育の指導案作成と教材研究
8	事前指導 (6)	模擬保育の展開と反省・評価
9	事前指導 (7)	模擬保育の展開と反省・評価
10	事前指導 (8)	模擬保育の展開と反省・評価
11	事前指導 (9)	模擬保育の展開と反省・評価
12	事前指導 (10)	マナー講座を受講し、実習生としてのあり方を学ぶ。
13	事前指導 (11)	幼稚園参加・指導実習について ・実習日誌の書き方について (部分実習時)
14	事前指導 (12)	幼稚園参加・指導実習について ・実習日誌の書き方について (部分実習時)
15	事前指導 (13)	幼稚園参加・指導実習について ・実習日誌の書き方について (全日保育時) I期のまとめ

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他 (編) 建帛社
『保育実技』久富陽子 (編) 萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・ 適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。

・ 事前指導には、絵本歌などの教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、三宅 美由紀		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園での見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
- 導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる。子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができるようになり、指導案の準備をして実習に臨む。
- 教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・質問、実習後の課題などについてはオフィスアワー、または必要に応じて個別に対応する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
 『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	教育実習に係る事前指導 1 教育実習の意義と課題①
2	事前指導	教育実習に係る事前指導 2 教育実習の意義と課題②
3	事後指導	教育実習に係る事後指導 1 実習の自己評価
4	事後指導	教育実習に係る事後指導 2 グループ討議による評価及び課題の明確化
5	事後指導 学習のまとめ	教育実習に係る事後指導 3 実習の意義、取り組むべき課題について発表 実習の反省の評価をし、各自の今後の保育へ繋げていく。
6	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
7	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
8	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
9	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
10	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
11	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
12	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
13	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
14	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
15	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1021S-〇030
担当者氏名	石川 恵美、三宅 美由紀			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

保育所生活に参加し、習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係を学ぶ。

《テキスト》

特になし。実習の中で自分で探すこと。

《授業の到達目標》

既習の教科や保育実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所の役割や機能についてさらに理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。又、指導計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み理解を深め、保育士としての自己の課題を明確にする。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先でも紹介してもらうこと。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導Ⅱの受講状況を加味したもの（60%）、実習ノート（40%）。なお保育実習Ⅱは保育所実習2週間をクリアしないと単位認定されない。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《授業時間外学習》

実習Ⅰでお世話になった保育園の行事などに積極的に参加し、保育園の役割や機能について理解を深めておくこと。ピアノはしっかりと弾けるように練習し、子どもの前であがらないようにしておくこと。あそび等のレパートリーを増やしておくこと。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつけること。欠席等は実習園と学校に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加指導実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は、保育実習実施要項参照 各実習園にて参加指導実習を行う。
2	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
3	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
4	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
5	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
6	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
7	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
8	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
9	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
10	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
11	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
12	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
13	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
14	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
15	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1021S-0031
担当者氏名	石川 恵美、三宅 美由紀			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

保育所見学観察実習で学んだことを基礎に、保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶ。学内では、保育実習Ⅰの実践、反省を通して、保育についてより具体的に理解を深める。

《テキスト》

「これで安心！指導案の書き方」 北大路書房 2008年
 「実習日誌の書き方」 開 仁志 一藝社 2015年

《参考図書》

『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年
 その他、適宜講義時に紹介する

《授業の到達目標》

- 保育活動に参加し実践することで、深く保育士の仕事を理解する。
- 保育活動の一部を担当し、保育研究をする事で保育計画作成力を身につける。
- 2年間の実習を通して保育士になることへの方向性を持つ。

《授業時間外学習》

- 実習Ⅰ時のノート・プリントをよく読んでおくこと
- 実習を振り返り、反省と課題を考えておくこと
- 子ども理解（発達など）について復習し、手遊び、読み聞かせなどを実践しておくこと

《成績評価の方法》

事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）とする。なお、保育実習Ⅱと同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

服装・態度も実習に適したものであること。欠席の場合は、必ず実習事務室に連絡すること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育所参加指導実習の意義と手続き 参加指導実習の心構え
2	参加指導実習に向けて1	見学観察実習の学びと自己反省、参加指導実習の課題について 指導案の書き方について①
3	参加指導実習に向けて2	実習記録の書き方について
4	参加指導実習に向けて3	創作絵本の読み聞かせ 手袋シアター
5	参加指導実習に向けて4	模擬保育①
6	参加指導実習に向けて5	模擬保育②
7	参加指導実習に向けて6	指導案の書き方について②
8	参加指導実習に向けて7	研究保育の教材研究
9	参加指導実習に向けて8	エプロンシアター 絵本リスト
10	参加指導実習を終えて1	実習直前指導
11	参加指導実習を終えて2	実習事後指導① グループディスカッション
12	参加指導実習を終えて3	実習事後指導② グループディスカッション
13	参加指導実習を終えて4	実習報告会①
14	参加指導実習を終えて5	実習報告会②
15	参加指導実習を通して6	保育所実習の振り返り まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C1021S-〇032
担当者氏名	古川 督、足立 法子、小林 洋司		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C1021S-〇032
担当者氏名	古川 督、黒澤 祐介		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ《施設実習》		科目ナンバリング	C1021S-〇033
担当者氏名	古川 督、足立 法子、小林 洋司			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、入所施設）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる
- 子どもの状態に応じた適切な関わりができる。
- 保育士の専門性を生かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し、実践できる。
- 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して情報収集につとめ、まとめるようにしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
 事後指導：報告書の作成（50%）
 実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習Ⅲ」の位置づけ、「保育実習Ⅲ」の目標と内容
2	実習施設の選定1	対象施設の選定
3	実習施設の選定2	対象施設の選定及び施設における支援の具体的内容
4	事前指導1	事前学習の内容、実習施設の理解
5	事前指導2	保育士と権利保障、実習書類の作成
6	事前指導3	保育とソーシャルワーク
7	事前指導4	保育士と地域社会との関係とかかわり
8	事前指導5	実習計画書の作成
9	事前指導6	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導7	実習報告書の書き方・提出の方法について
11	事後指導1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導2	「保育実習Ⅲ」の評価のまとめ
13	事後指導3	実習報告会の準備
14	事後指導4	実習報告会
15	事後指導5	保育士資格と進路

科目名	保育の心理学Ⅱ	科目ナンバリング	C1021S-●035
担当者氏名	土井 裕貴		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを心身ともに発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちの発達・成長を促せる、質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達過程を正しく理解し、その段階に応じて、どういった関わり方が子どもたちの発達を促せるのかを考える。

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観、子ども観、保育観を見立てられること。

《成績評価の方法》

第15回目に行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%
 なお、授業内で提出を求める課題についてはコメントを付記して返却する、解説を行うなどのフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学び、子どもの発達を正確に捉え、その心理面を理解する際の留意点を学ぶ。
2	発達の個人差と評価	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。また保育における評価の在り方についても考える。
3	遊びの中にみる1歳児	1歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
4	遊びの中にみる2歳児	2歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
5	遊びの中にみる3歳児	3歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
6	遊びの中にみる4歳児	4歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
7	遊びの中にみる5歳児	5歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
8	遊びの中にみる6歳児	6歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
9	集団保育と発達	集団保育を通して子どもが発達する過程について理解を深める。
10	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当てて学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
11	集団保育の形態と発達	集団保育のさまざまな形態について理解し、子どもの心の発達について理解を深める。
12	TEACCHプログラムによる支援方法	TEACCHプログラムの概要を理解し、支援方法について理解を深める。
13	応用行動分析による問題行動の支援方法	応用行動分析（ABA）の概要を理解し、子どもの問題行動への支援方法について理解を深める。
14	就学支援	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる支援の継続の重要性について理解する。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 ※他科目で使用しているもので可

《参考図書》

『保育の心理学Ⅱ』清水益治・無藤隆編著 北大路書房
 2011、『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫（編）建帛社 2011、『発達心理学で読み解く保育エピソード—保育者を目指す学生の学びを通して』若尾 良徳・岡部康成 北樹出版 2010、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる報道に注目する、ボランティア活動などを通して、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得が困難だと心得ておきましょう。単に出席するだけではなく、積極的な授業参加を求めます。現場に必要とされる保育者を志して下さい。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C1021S◆-036
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

人は生まれてからたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。
質問等は授業終了後やオフィスアワー等で受け付けて対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	C1022S-〇038
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期である青年期の心理の特性を、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解するとともに、家庭に潜む心の問題、学校や社会への不適応、就職など社会参加を目前にした情緒不安など、青年期に特有な心理的な諸問題について理解し、青年の自立と成長の支援とは何かについて考える。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・青年期のさまざまな問題行動の背景にある心理を理解できるようになる。
- ・施設保育者として必要な、青年期の人々に特有な心理的な諸問題について理解できる。
- ・青年期の人々の悩みや問題に向き合うことができる
- ・青年期の人々の悩みや問題について、相談に乗ったり解決への支援ができる。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献や新聞などを自ら進んで読み、授業内容について理解を深めてもらいたい。
また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に持ってください。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート課題の評価 70%
授業への取り組みの評価 30%
レポート課題については、全体的な講評を行う。

《備考》

グループで取り組む課題を出すので能動的に学習に取り組むこと。また、グループ内で協働する力を身につけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	授業の進め方の概要。保育者が青年心理学を学ぶ意義について青年期の特徴について 青年期の課題について
2	青年期のとらえ方 青年心理学の研究法	青年期の特徴について理解を深める（生物学的現象 文化的現象 通過儀式） 発達心理学の研究手法について理解を深める（実験法 テスト法 事例研究法）
3	青年期前期の心的特性①	青年期前期の心的特性について理解を深める 自我の覚醒 自我の構造と機能 自己概念の形成 内面化
4	青年期前期の心的特性②	青年期前期の心的特性について理解を深める 不安定性 第二性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
5	1～4講の学習のまとめ	1～4講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 発達心理学の基礎的事項 自我の発達 青年期の特徴 青年前期の特徴
6	青年期中期の心的特性①	青年期中期の心的特性について理解を深める 自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的反抗 虚勢的反抗
7	青年期中期の心的特性②	青年期中期の心的特性について理解を深める 形式的操作期 理性と感情 少年の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
8	青年期後期の心的特性①	青年期後期の心的特性について理解を深める 自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
9	青年期後期の心的特性②	青年期後期の心的特性について理解を深める 生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
10	6～9講の学習のまとめ	6～9講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 自我発達 キャリア形成 青年期の病理
11	青年期後期の心的特性③	青年期後期の心的特性について理解を深める 社会的人格の形成 エリクソンの斬成説
12	青年期後期の心的特性④	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 モラトリアム
13	青年期後期の心的特性⑤	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）に関する心理検査を通して自己分析
14	青年から大人へ	青年期から成人期への移行におけるトピックスについて理解を深める 結婚 家族の形成 社会的責任 人格の変容
15	11～14講の学習のまとめ	11～14講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 自己分析

《学科教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C1021S◆-040
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
 2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。
 ※筆記試験後、試験問題についての解説を行う。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度(1)	昭和(戦前)期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度(2)	昭和(戦後)期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度(1)	公教育制度(現状と課題)
5	現代日本の教育制度(2)	教育法制(現状と課題)
6	現代日本の教育制度(3)	教育行政(現状と課題)
7	現代日本の教育制度(4)	学校経営(現状と課題)
8	現代日本の教育制度(5)	保育制度(1)(現状と課題)
9	現代日本の教育制度(6)	保育制度(2)(現状と課題)
10	現代日本の教育制度(7)	教職員人事(現状と課題)
11	現代日本の教育制度(8)	教員養成・研修(現状と課題)
12	現代日本の教育改革(1)	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革(2)	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C1021S◆●044
担当者氏名	小林 孝子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

「健康」は、日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考える。

《テキスト》

『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』

《参考図書》

資料を配布する。
必要に応じて、参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- ・領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
- ・乳幼児の心身の発育・発達について基礎的知識を身につける。
- ・子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を探る。
- ・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
- ・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《授業時間外学習》

- ・授業内容を復習し再確認すること。
- ・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース、記事等を記録しておくこと。
- ・自分自身の健康管理に努めること。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）・提出物（20%）・授業態度（10%）で評価する。

- ・わからないところはオフィスアワー等で質問を受け付ける
- ・小テストやレポートにコメントを付して返却する。
- ・授業の到達目標に対しては、全体に講評を行う。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・制作用具は必ず用意すること（ハサミ、のり、テープ他）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 健康の定義について	・講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 ・WHOの健康の定義やその他の考え方から、[健康]について考えてみる。
2	領域「健康」について	・保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている[健康]のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	・乳幼児期の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	・運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	・生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	・母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	・乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の社会性の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
8	子どもの心と健康	・乳幼児のパーソナリティの発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
9	子どもの健康をめぐる問題	・子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を探る。 ・食育について理解を深める。
10	子どもの活動と教材と遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。
11	子どもの活動と教材、遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。 ・安全で楽しい園庭を考える。
12	子どもの活動と指導	・いろいろな教材、遊具の遊びと指導を理解する。 ・安全で楽しい園庭を考える。
13	安全の指導	・子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識する。 ・安全の指導のすすめ方を理解する。・家庭への健康・保健便りを考える。
14	安全の指導	・安全管理について認識を深める。 ・家庭への健康・保健便りを考える
15	まとめ	・授業のふりかえり及び理解度の確認。

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C1021S◆●044
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

「健康」は日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。乳幼児の健康を取り巻く諸問題を考え、対等に位置づけられた保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「健康」について理解を深める。そして、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、自主的に指導の在り方を考えることを目的とする。

《授業の到達目標》

領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
 乳幼児の心身の発育・発達について基礎知識を理解する。
 子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を説明できる。
 乳幼児の遊びを知り、製作や身体を使った遊びをすることが主体的にできる。
 乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、「指導法」を説明することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（70％）提出物（20％）授業態度（10％）
 レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省、文部科学省、内閣府編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

清水 将之、相楽 真樹子他編集（2015）
 『〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域 健康』わかば社
 適宜資料を配布する。適宜授業中に参考図書を紹介する。

《授業時間外学習》

授業内容を復習し、再確認すること。
 子どもに関するニュース・記事・「健康」に関するニュース、記事等を記録しておく。
 自分自身の健康管理に努めること。

《備考》

授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。
 提出物は期限厳守・製作用具等は必ず用意すること（ハサミ、のり、テープ等）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 「健康」の定義について	講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 WHOの健康の定義やその他の考え方から、「健康」について理解する。
2	領域「健康」について	保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に示されている「健康」のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	乳幼児の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を説理解する。
8	子どもの心と健康	乳幼児のパーソナリティの発達とさらに運動面との関連を理解する。 乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を説明できる。
9	子どもの健康をめぐる問題	子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を理解する。 食育について理解をする。
10	子どもの活動と教材と遊具	色々な教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を説明することができる。
11	子どもの活動と教材と遊具	色々な教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を説明することができる。 安全で楽しい所（園）庭を説明することができる。
12	子どもの活動と指導	色々な教材、遊具の遊びと指導を理解する。 安全で楽しい所（園）庭を説明することができる。
13	安全の指導	子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識し、理解をする。 安全の指導のすすめ方を理解する。家庭への健康・保健便りを説明することができる。
14	学習のまとめ 振り返り	今までの授業について振り返り、レポートを書き、内容を検討して、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。授業の振り返り、自己評価と理解度の確認。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C1021S◆●046
担当者氏名	金谷 公子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

・子どもは、身近な自然環境や社会環境、人的環境に触れることにより、様々な事柄に好奇心や探求心、疑問などをもつ。本授業では、こうした子どもの思考力の芽生えを大切にし、子どもが環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、保育者が果たすべき役割などについて具体的な実践例、映像を通して考えます。

《授業の到達目標》

・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「内容」「ねらい」等を理解する。
 ・演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助等を理解する。
 ・保育者自身が、子どもにとっての最も影響力の大きい環境であることを自覚し、望ましい環境を作っていく実践力を身に付ける。

《成績評価の方法》

- 筆記試験（60%）
- 課題への取り組み・レポート等の提出物（20%）
- 授業や演習への参加意欲と態度（20%）
- レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

「保育内容『環境』」共著北大路書房
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「演習保育内容環境」柴崎正行建帛社
 「環境」共著チャイルド社、「保育内容環境」共著ミネルヴァ、「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに
 「事例で学ぶ保育内容環境」無藤隆萌文書林
 「子どもがあそびたくなる草花のある園庭と季節のあそび」フレーベル館

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をとおり、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。
- ・テキストは資料と並行して活用するため、毎回持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意について理解する。 ・環境の概念について知る。
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」について理解する。 ・子どもに環境とかがわる力を育てるという視点から、その方法や内容を考える。
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴について理解する。 ・発達の順序性と連続性について理解する。
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながりについて理解する。 ②子どもと地域社会のつながりについて理解する。
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながりについて理解する。 ④子どもと保育者のつながりについて理解する。
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境を理解する。 ②園内の遊びの環境を理解し、環境にかかわる中で育つものは何かについて考える。
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心についてその意味や育てる要因について考える。 内発的動機づけについてどのような環境のなかで高めることができるのか考える。
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②環境を構成するにあたり、時間・空間という視点から考える。 一日の生活時間の構造について理解する。
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識について考える。 遊びやかかわりの工夫について考える。
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育について考える。 知的発達、創造力の発達について理解する。
11	自然環境と子どものかかわり	・身近な動植物とのかかわりを指導実践事例を紹介しながら具体的に考える。 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	・道徳の概念について理解する。 ・道徳を育む保育について主体的に考え、その保育について説明することができる。
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわりを具体的な実践事例をもとに考える。 ・地域の行事と子どものかかわりを具体的な実践事例をもとに考える。
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境についていかに実践されているのかを実際に調べる。 ・教育の視点から見る安全環境についていかに実践されているのかを実際に調べる。
15	まとめ	・授業の振り返りと理解度を再確認し、環境についての具体的な学びを説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C1021S◆●046
担当者氏名	諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

・子どもは、身近な自然環境や社会環境、人的環境に触れることにより、様々な事柄に好奇心や探求心、疑問などをもつ。本授業では、こうした子どもの思考力の芽生えを大切にし、子どもが環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、保育者が果たすべき役割などについて実践例を通して学び取る。

《授業の到達目標》

・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「内容」「ねらい」等を理解する。
 ・演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助等を理解する。
 ・保育者自身が、子どもにとっての最も影響力の大きい環境であることを自覚し、望ましい環境を作っていく実践力を身につける。

《成績評価の方法》

- 筆記試験（60%）
- 課題への取り組み・レポート等の提出物（20%）
- 授業や演習への参加意欲と態度（20%）

《テキスト》

「保育内容『環境』」共著北大路書房
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「演習保育内容環境」柴崎正行建帛社
 「環境」共著チャイルド社、「保育内容環境」共著ミネルヴァ、「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに
 「事例で学ぶ保育内容環境」無藤隆萌文書林
 「子どもがあそびたくなる草花のある園庭と季節のあそび」フレーベル館

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をとおり、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・環境の概念
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」 ・環境をとおして行う保育
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴 ・発達の順序性と連続性
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながり ②子どもと地域社会のつながり
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながり ④子どもと保育者のつながり
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境 ②園内の遊びの環境
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心の芽ばえ 内発的動機づけ
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②時間・空間の概念 一日の生活時間の構造
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識 遊びやかかわりの工夫
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育 知的発達、創造力の発達
11	自然環境と子どものかかわり	・身近な動植物とのかかわり 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	・道徳の概念 ・道徳を育む保育
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわり ・地域の行事と子どものかかわり
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境 ・教育の視点から見る安全環境
15	まとめ	筆記試験 授業の振り返りと理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現A	科目ナンバリング	C1021S◆●048
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせるとひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	C1021S-●051
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）
 2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
- 授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育B	科目ナンバリング	C1022S-●053
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

- 1、乳児保育Aで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・積極性・集中度・調和（20%）
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

- 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
 「乳児保育Ⅰ 演習と講義」金子保著 クオリティケア
 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
 「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局
 「乳児の保育新時代」ひとなる書房
 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念 ビデオ「赤ちゃんからのメッセージ」
2	乳児保育の概念	・乳児保育の概念とその重要性
3	保育の歴史	・保育所保育と幼稚園教育
4	乳児保育と時代の変化	・時代と共に歩んできた乳児保育について
5	発達の姿と保育援助①	・0歳児の発達過程と特徴（4ヶ月まで） ・0歳児の保育環境
6	発達の姿と特徴①	・ホールディングの意味と方法 ・授乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係、離乳
7	発達の姿と保育援助②	・1歳児の発達過程と特徴 ・1歳児の保育環境（赤ちゃんのおもちゃ） 愛着の絆について ビデオ
8	発達の姿と特徴②	・探索活動の理解と援助 自我の芽生えと好奇心 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助
9	発達の姿と保育援助③	・2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ・2歳児の保育環境 自我の芽生えと好奇心
10	保育の計画	・乳児の指導計画
11	家族支援と事例検討	・保護者対応、様々な保育ニーズ・チームワーク
12	発達のつまづきへの対応	・子どもの発達障害へのアプローチやネットワークを考える
13	製作 乳児のおもちゃ①	・手袋シアター「三匹のやぎのガラガラドン」
14	製作 乳児のおもちゃ②	・製作「アンパンマン」
15	授業の振り返りと理解度の確認	・レポートから見る課題

《学科教育科目》

科目名	障害児保育B	科目ナンバリング	C1022S-●055
担当者氏名	足立 法子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題などを踏まえながら障害を理解しようとする心構えと、実践的な技能及び認識を高めることを目指して学習することである。

《テキスト》

※障害児保育Aで使用したテキストを使用

《参考図書》

授業中に適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して、いかに行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献を読む、障害児に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価50%
授業中に実施するレポート課題や発表および授業への取り組みの評価50%
試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念①障害とは何か	障害とは何か、について理解を深める。 障害児に対する保育・教育の歴史
3	障害の概念②障害とイメージ	「障害」と聞いたときに人が持つイメージから、障害の本質について理解を深める。障害理解教育についても理解を深める。
4	障害の概念③障害と福祉	障害児・者に対する福祉行政の問題から、今後の課題について理解を深める。
5	障害児保育の現状と課題①福祉・保育	障害児をめぐる福祉・教育の現状と課題について理解を深める
6	障害児保育の現状と課題②保健・医療	障害児をめぐる保健・医療の現状と課題について理解を深める
7	障害児保育の現状と課題③専門性	障害児保育と専門性の問題について理解を深める
8	障害児への支援①グループ研究	グループで相談し、グループ研究で取り扱う障害を選び、研究するテーマについての概要をまとめる
9	障害児への支援②グループ研究	自分たちの選んだ障害、テーマについて文献研究を行い、PPTのスライドを作成する
10	障害児への支援③グループ研究	発表のためのアンケートや実践、教材作りなどを行う
11	障害児への支援④グループ研究	アンケートなどの結果をまとめ、考察を行う。また、今後自分たちが身につけるべきこと、課題について考える
12	障害児への支援⑤グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
13	障害児への支援⑥グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
14	障害児への支援⑦グループ研究のまとめ	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見をレポートにまとめる
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C1022S◆○056
担当者氏名	大久保 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

1. 子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
2. カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
3. 保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

1. 授業態度（20%）
2. レポート課題等の提出物（20%）
3. 期末試験（60%）

1の授業態度に関しては、授業に関係のない私語は厳禁とし、積極的に参加する姿勢を評価します。

《備考》

- ・講義の開始時に出席を確認します。
- ・授業や心理学に関する質問は、授業中や授業後でも対応します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1. 教育現場とは 2. 授業のオリエンテーション 3. 自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1. 不登校とは 2. その対応
3	教育相談の実際2	1. いじめについて 2. 非行について
4	パーソナリティとその理解1	1. 心の構造 2. 自我の防衛機制について 3. 心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1. 教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1. 子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1. 発達障害とは 2. 広汎性発達障害 3. LD 4. ADHD
8	カウンセリングとは	1. カウンセリングとは 2. カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1. カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1. 主な心理療法について 2. 心理検査とは
11	描画体験とその理解	1. 描画体験 2. その説明
12	関係機関との連携・協働	1. スクールカウンセラーとは 2. 関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1. 幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1. 具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1. 学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	C1022S◆●057	
担当者氏名	笹田 哲男、福田 規秀、三浦 摩美、未定、石川 恵美、杉田 律子、金谷 公子、小林 孝子、山村 けい子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 				

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、実習の振り返りを行う。また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識・技能を修得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

○教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。
○社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。
○教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質・能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見模擬保育等）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案等）50%、発表（討論での意見模擬保育等）50%
課題、発表については、講義内で講評を行う。

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力、保育内容の指導力についての講義（保育現場からの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。またロールプレイなどにより学んだことを幼児理解や保育実践に繋げる。
8	模擬保育1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
9	模擬保育2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
10	模擬保育3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
11	模擬保育4	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
12	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
13	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（3）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。